迪を恵め 噫妖雲は狂へども らし若人等

巍然四寮に立籠もり の歌高誦ふかな

若き男の子の寮歌消ゆる

今玲瓏の谿谷に

緑葉 漸 く紅葉して 不壊の生命と輝きしょ ゑ ぃのち ゕがや

爛漫春を 欺 けど 三年の契浅からず

名残の春を惜むべし 銀觴口辺にうつろへば

の群は去り行きて

橇の音孤弦の月を呼ぶ くり ねこげん つき よ 颯々の風音寒く Ŧi.

今宵何をか思ふらん 窓に佇む多感の遊子

月影淡き楡の陵のきかげあわにれをか かに宵を誦はなん

月三更の影冴ゆるっきさんこうかげは 夏草深き丘上に 角笛遠くこだましぬつのぶぇとほ

> 荻野 辰夫君

Ш 村真君 作曲 作歌